

[年度] 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] マコモの省力多収栽培技術

[要約] マコモ優良系統「千葉早生」の移植時期は、マコモタケの収量が多く、品質に優れる5月下旬が適する。水稲用緩効性肥料の基肥全量施用で施肥管理が省力的である。また、雑草対策として紙マルチ被覆と刈払いの組み合わせにより高い抑草効果が得られる。

[キーワード] マコモ、移植期、緩効性肥料、紙マルチ、刈払い

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

マコモは水稲と同様に水田に植付け、比較的粗放な管理でも栽培できることから、遊休農地の増加抑制にむけた品目として注目されている。しかし、栽培技術には不明な点が多ことから、優良系統「千葉早生」の省力的な栽培技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 移植期の早晚にかかわらず収穫開始は9月30日である。株当たり収量は5月31日、6月28日移植で多く、品質は5月10日、5月31日移植で優れる。6月28日移植では繊維質が発達して緑化し、品質が劣るため、5月31日が移植期として適する(表1)。
2. 施肥量が少ないと収量が少なく、マコモタケも小さくなる(表2)。水稲用緩効性肥料「セラコートR622(16-12-12)」(ヒノヒカリ用)の基肥全量施用で追肥が省略でき省力的である。
3. 紙マルチは移植30日後まで高い抑草効果を示すが(図2)、40~50日には分解して雑草の発生が始まる。雑草発生後、1カ月間隔で草刈機による刈払いを行うことで、抑草効果が高まり、収量は無処理区に比べて増加する(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. マコモは水稲と同様な管理のできる水田で栽培できる。収穫が10月中・下旬まで続くので、この時期まで水を確保できる水田が望ましい。
2. 定植は浅水で行い、紙マルチ被覆した後、入水は除々に行う。
3. 紙マルチは幅1.6m・100m巻き(三洋製紙株式会社)を10a当たり7本使用する。

[具体的データ]

表1 移植期が生育、収量、品質に及ぼす影響

移植期	収穫		収量 (g/株)	可食部の品質
	始日 (月. 日)	終日 (月. 日)		
5月10日	9. 30	10. 18	1,054	白色、柔らかい
5月31日	9. 30	10. 18	1,441	白色、柔らかい
6月28日	9. 30	10. 25	1,428	緑化、硬い

注) 試験実施：2013年



図1 移植期の差による品質
左：5月31日移植、右：6月28日移植

表2 施肥量が生育、収量に及ぼす影響

施肥量 (Nkg/10a)	9月22日の生育			株当たり収量		1 茎重 (g)
	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉色	収量 (g/株)	収穫茎数 (本/株)	
5	176	27.8	35.3	1009	22.8	44.3
10	178	29.4	37.2	1000	23.2	43.1
20	202	29.2	39.7	1386	26.9	51.5

注) 試験実施：2014年

移植期：5月30日 栽植密度：1.0m×1.5m 植付本数：1本/株

施肥量は全量基肥とし水稲用緩効性肥料「セラコートR622

(16-12-12)」を使用。

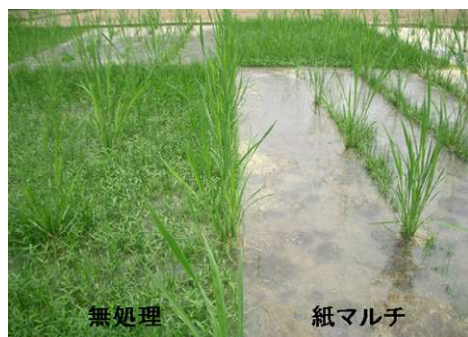


図2 紙マルチ被覆による抑草効果
(移植30日後)

表3 除草法がマコモの生育、収量に及ぼす影響

除草法	9月22日			収量 (g/株)	収穫茎数 (本/株)
	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉色		
無処理	164	6.4	29.6	300	6.0
紙マルチ+刈払い	191	25.5	37.7	925	20.0

注) 試験実施：2014年 移植日：5月30日

マコモ移植時に水稲用紙マルチ（三洋製紙株式会社）を被覆。

紙マルチ分解後に発生した雑草は7月22日、8月29日の2回草刈機による刈払いを行った。

[その他]

研究課題名：農林水産業競争力アップ技術開発

地方野菜の高品質多収生産技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成25～26年

研究担当者：川村和史、宮井良介

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可